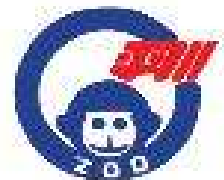


# 鹿児島市平川動物公園における チンパンジー飼育の歴史



○福守 朗, 小村 圭  
鹿児島市平川動物公園



# はじめに

- 鹿児島市平川動物公園は1972年に開園した当初からチンパンジーを飼育してきた。
- 現在地に移転する前身の鴨池動物園時代を含めると1954年以来、のべ14頭のチンパンジーに関わったこととなる。
- 約60年間の飼育の歴史を振り返ることにより、各個体の情報、過去の飼育状況を明らかにするとともに、今後の飼育のあり方と課題について検討したい。

# 飼育個体一覽

国内No.	個体名	性別	生年月日	出生地	来園年月日	出園年月日	移動先	死亡地	死亡年月日	死亡時年齢	死因	備考
	マリー	♀	推定1953年	野生由来	1954年8月	1966.04.19	桃太郎園	桃太郎園	1966.04.20	13歳	事故死	脱走後の麻酔事故
	博男	♂	推定1954年	野生由来	1956年9月	1966.04.19	桃太郎園	桃太郎園	1966年9月	12歳	結核	
	リリー	♀	推定1965年	野生由来	1966.04.15	1974.10.05	吉川商会					
	チコ	♀	推定1965年	野生由来	1966.04.15	1974.10.05	吉川商会					
	ジロー	♂	推定1965年	野生由来	1966年5月			鴨池動物園	1968年2月	3歳	事故死	京浜鳥獣より
0058	太郎	♂	推定1969年	野生由来	1972.10.03			平川動物公園	1992.01.04	23歳	自家中毒	
0059	陽子	♀	推定1969年	野生由来	1972.10.03			平川動物公園	1991.12.16	22歳	自家中毒	
0102	ゴロー	♂	推定1975年	野生由来	1992.01.15	1993.07.16	川原鳥獣	川原鳥獣	1994.10.05	19歳	肺炎	アドベンチャーワールドより
0227	ラルゴ	♂	1983年?	オランダ	1992.03.25							別府ラクテンチより
0345	ティナ	♀	推定1980年	野生由来	1990.03.29			平川動物公園	2005.04.08	25歳	胃潰瘍	北里研究所→日本モンキーセンターより
0404	ケイ	♂	1991.5.18	円山動物園	1995.06.23							
0218	タロー	♂	1983.08.06	八木山動物公園	1988.05.18	1988.09.09	長沙市動物園					
	チェリー	♀	推定1980年	?	?	1988.09.09	長沙市動物園	長沙市動物園	1988.10.02	5歳	肺結核	讃岐動物園より
	アイ	♀	推定1988年	エジプト	?	1990.11.25	長沙市動物園					有竹鳥獣経由

で示したのが現存個体 国内No空欄の個体は血統登録書未掲載

# 各個体の在籍期間

	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
マリー		■	■	■									
博男		■	■	■									
リリー				■	■	■							
チコ				■	■	■							
ジロー				■									
太郎					■	■	■	■	■				
陽子					■	■	■	■	■				
ゴロー									■				
ラルゴ									■	■	■	■	■
ティナ									■	■	■	■	
ケイ										■	■	■	■
タロー													■
チェリー													■
アイ													■

オスは ■ メスは ■ で表示

タロー、チェリー、アイについては中国・長沙市に寄贈前の一時預かり



1960年頃のマリーと博男(鴨池動物園)



1973年のリリーとチコ  
(平川動物公園・現在のワオキツネザルの島)



1966年のジロー(鴨池動物園)



1970年頃のリリーとチコ(鴨池動物園)



1975年の太郎と陽子 1973年から1978年頃まで  
ショーに出演(平川動物公園)



現在の類人猿舎(平川動物公園)

# 14頭中 2頭現存 8頭搬出 4頭死亡

- 搬入後の在籍期間が短い  
(平均飼育期間12.1年 短期預かり除く)
- 搬出先が不明の個体あり(リリーとチコ)
- 出生地が不明(チェリー)
- 搬出先で短期間内に死亡(翌日～1年2カ月)
- 若齢で内臓疾患・事故で死亡
- 30歳以上まで生存は1頭(ラルゴ)
- 国外へ「寄贈動物」としての短期預かりが3頭  
(アイ、チェリー、タロー)

# 子孫を残している個体なし

- 園内および搬出先で子孫を残した個体は0
- 14個体中9頭が野生由来であることが明らか
- 貴重な遺伝子を次世代に残していない
- 施設上の制約等もあり 過去に群飼育は行われていない
  - 繁殖/社会行動の学習機会得られず
- 2005年以降 オスのみの単性飼育である
- 搬入と搬出をくり返し 中長期的な繁殖計画および将来構想が欠けていた

# 成果・現状・課題

- 2010年12月30日にラルゴとケイ(いずれもオス)の同居に成功し単独飼育が解消した。
- 健康管理を目的として、飼育担当者との信頼関係に基づくトレーニングが進みつつある。
- 2014年度に新チンパンジー舎の建設が計画されており、動物福祉に配慮した施設が完成する予定である。
- 今後は既存のオス2個体に新規導入個体を加え、新たな群づくりを行う。
- 他の飼育施設および研究機関と連携し、適切な繁殖を行うことにより域外保全に貢献する。
- チンパンジーの姿が正しく伝わる展示を目指し、教育・研究活動を推進する。
- 個体情報の管理と保存を徹底する。  
(今回、血統登録書未掲載の個体が存在していたことが判明)